

【畜産農家の声】

「あぐりの丘 新鮮たまご」販売中です



フォーベルネット会員 岡 巳江さん

(備中県民局高梁支局 田辺裕司)

自動販売機で買ったばかりの「あぐりの丘新鮮たまご」。家に帰って早速ご飯に落としてみる。コン、コン・・・、あれ、割れない。コン、コン、コンッ、グシャッ。しっかりした殻を割ると中からはこんもりと盛り上がった黄身。弾力があり、箸でつぶすのがおもしろい。コクがあるのに生臭みはまったく感じられない赤玉卵。確かにおいしい・・・。

ここは高梁市川上町仁賀地区。今回はこの卵の生産農場、(有)アグリフーズをご主人とともに切り盛りしている岡巳江さんをご紹介します。

(有)アグリフーズでは現在約10万羽の採卵鶏を飼養。2万羽から現在の規模に拡大したのは10数年前。「いいエサで育った、いい鶏から、いい卵が産まれる」との理念のもとで、試行錯誤を繰り返しながら鶏にあうエサ、水などを探求し続け、納得のできる品質の卵を生産されてきました。

さて、岡さん。農場を訪れるといつも屈託のない明るい笑顔で迎えてくれます。ところで最近は直売にも力を入れておられるようですね。きっかけは何ですか？

「卵の出荷は県内外のスーパーが中心じゃったけど4年前に自動販売機を導入して直売を始めたんよ。うちの卵の新鮮さと味を地元の人にも是非体験してもらいたい思うてね。今では井原市に6台置いとるし、販売機だけじゃのうて、高梁や井原の青空市4カ所にも出荷させてもらうとるんよ。」

この販売機は常に携帯電話で在庫状況が確認でき、いつでも新鮮な卵が買える仕組みになっているとのこと。でも、なぜそんなに直

売にこだわるの？

「食べてくれる人と直接会話ができ、評判が聞けるのがええんよ。自動販売機にしても毎日商品の詰め替えをするから、そのとき買いに来てくれとるお客さんと話ができる。『どういうふうに飼よん』とか『これはどんな卵なん』とかね。自動販売機を始めた頃に、『おいしい卵をありがとう。これからも続けてください』って手紙をもらったときは本当にうれしかったです。あれで直売の楽しさを知ったかな。この前はHPで『この間こういう卵を食べた。おいしかった！』と紹介してくれた人もおったんよ。」

今後は自動販売機の増設もさることながら、年内にも福山市内へアンテナショップ開設を検討中とのこと。直売を通じた消費者との交流は今後もますます発展させる予定のようです。ところで、何か趣味はありますか？

「仕事です。この仕事が天職だと思って毎日やってるんですよ。」

・・・でも、なんかあるでしょ。

「うーん、年に1回1泊で温泉旅行することかな〜。年末にも飛騨高山へ行ったばかりなんよ。その前は道後や韓国にも(略)」

やっぱりあった。でもそのうちに話はすぐ仕事の方へ。やはり仕事の話をしているときの顔が一番いいなあ。ということで今後の抱負を聞いてみました。

「特にはないけど、普通どおり何事もなく今の仕事が続けられることです。去年、町内で鳥インフルエンザが発生したときに、朝起きて農場に来て、普通どおり卵が出荷できることのありがたみを痛感したんよ。」

身に染みるお言葉。ちなみに岡さんはゴジュウと〇〇歳。でも、若い。この秘訣は毎日好きな仕事を楽しんでいるからか、あるいはいつも農場の新鮮な卵を食べているからか。では岡さん、あのおいしい卵、楽しみにしてますよ〜！

